

二十歳の旅立ち

「成人式は今」

今年、市内では約700人の若者が、大人の仲間入りをします。
この季節、全国各地の「荒れる成人式」が、話題になります。自治体によっては、中止の動きさえあります。
そんな中、市では、その年に成人を迎える若者たちが、自ら企画・運営する「成人式実行委員会」方式を4年前から始めています。
こうした成人式実行委員会の動きをクローズアップしてみました。



現在の「成人式」の起源は、昭和21年埼玉県蕨町（現在の蕨市）の青年団が、戦後の混乱期の中、青年たちにも大人としての自覚と希望を持たせようと「成年式」を企画したが、始まりとされています。

その後、昭和23年に「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を励ます日」として、1月15日を「成人の日」とし、満20歳になった男女を成人と認める祝日にしたものです。

当市では、平成10年まで、市が企画する「成人式」を行ってきました。しかし、やがて慣例的行事としての色彩が濃くなってきました。そこで、より魅力的な成人式を行うにはどうすればよいのか検討した結果、「若者たちに

よる若者たちの成人式」を行ってみようとして、平成11年から新成人になる若者たちによる実行委員会方式を取り入れました。

当初、参加者に戸惑いもあったこの方式も、年が経過するにつれて内容も充実してきました。

今年も、実行委員会では、仲間たちと新成人の誕生を祝おうとプログラム内容を企画することも、その準備を進めています。

成人式の内状発送準備や当日上映する恩師からのビデオレターの取材や懐かしい思い出をフライドショーで振り返る「20年のおもひで」の制作にと奔走しています。

写真は、昨年の成人式の様子です